

高尾山報

令和5年4月号



春を呼ぶ高尾山火渡り祭厳修

於・山麓自動車祈禱殿大広場



地震発生の時刻に合わせ法要が行われました

東日本大震災慰靈法要厳修
三月十一日(土)

東日本大震災発生から十三回忌を迎えた三月十一日、高尾山上において「東日本大震災慰靈法要」が営まれました。

午前十一時半、犠牲者名簿が納められている、有喜苑の東日本大震災物故者供養塔において、未曾有の大津波や震災に関連して命を落とされた方々を懇ろに御供養申し上げました。

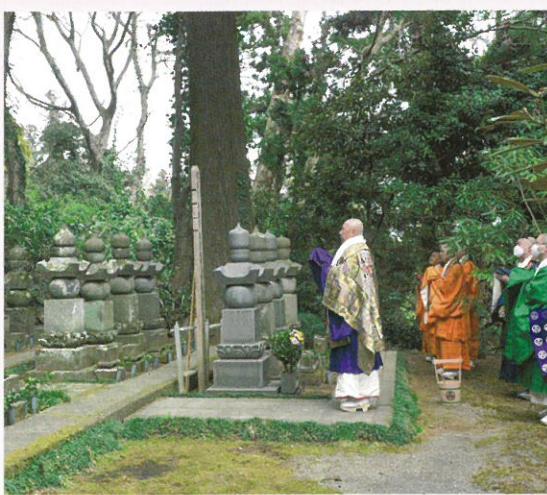
その後、地震が発生した午後二時四十六分に合わせて、大本堂左陣祭壇において、僧侶と共に参列の皆が鎮魂と、被災地の更なる復興促進を祈りました。

東日本大震災慰靈法要厳修
三月十一日(土)

(『今昔物語集』)
お大師さまは寺々を弟子たちに譲り、自らは次子の目標へと歩み出されました。即ち高野山上に金剛峯寺と名付けました。

また、入定の場所を造り、承和二年(八三五)という年の三月二十一日の寅の時(午前四時頃)に、結跏趺坐(仏様の座形)を結んで、その中で入定なされました。御弟六十二歳。その時、御弟が宝鳥(仏法僧鳥)の声が聞こえてくる。鳥には鳴

春彼岸先師墓地参り 三月二十一日



たまま、人々を救うための修行をずっと続けられているのです。
閑林に独坐する
三宝の声
一鳥声あり
一鳥に聞く
声心雲水
俱に了了
三宝の声
空海(性靈集)
（暁の頃、静かな林で、さんだ鳥の声が聞こえてくる。鳥には鳴

き声があり、人には心と水とが私に溶け込んで、悟りがある。声と心、雲と水とが私の境界が明らかになる。「入定」の先には「出生」がなされるという五六億七年後には、お大師さまも再びこの世に立ち現れます。やがて私は、この間に思いを馳せつつ、私たちもお大師さまの御心に寄り添つて生きたいと念じます。

(栃木北部教区普濟寺)

法の水茎

大正大学講師 高橋 秀城

(130)

今年は例年よりも春の訪れが早かつたようです。東京靖国神社の標本も、観測史上最速タイとなる三月十四日の開花宣言となり、下旬には見頃を迎えた。満開の桜のもとでの入学式も、今まででは過ぎた昔の思い出でしようか。この頃は卒業式のほうが似合う花のようにも感じます。

青葉さへ見れば心のとまるかな
散りにし花の名残と思へば
(西行『山家集』)

青葉さえも見れば心が惹かれるよ。散つてしまつた桜の花の名残と思ふうと)

四月に入つて、青葉が毎年の誕生日です。この日全国の寺院では、お釈迦様の誕生を祝う「花まつり」という仏教行事が執り行われました。もともとは「灌仏会」

お釈迦様は生まれてぐに七歩進んで、右手で天を、左手で地を指さし、かの有名な「天上天下唯我獨尊」という言葉を発したと伝えられています。お釈迦様は、さまであります。お祝いします。

昔の今日を

思ひこそや
うれしきは
さまばかり
見るにつけても

(源道済『道済集』)

（少しばかり見るにつけても有り難いのは、「昔の今日」を思ひやることよ）

「昔の今日」とは「かつての年の今日に当たる

和歌には「四月八日、山寺に即事、灌仏」という詞書が付されています。お釈迦様は、さまであります。お祝いします。

四月八日の花祭りは、地方よつては月遅れの五月八日や、旧暦の四月八日(今年は五月二十七日)に行われるそうですが、われている灌仏を拝しながら、同時に遠い昔の御誕生時の光景を重ね合わせているのでしょうか。

四月八日の花祭りは、地方よつては月遅れの五月八日や、旧暦の四月八日(今年は五月二十七日)に行われるそうですが、われている灌仏を拝しながら、同時に遠い昔の御誕生時の光景を重ね合わせているのでしょうか。

真言宗を開いた弘法大師空海(七七四~八三五)もまた、お釈迦様

（高野山）にお移りになりました。その中でも、高さ

院を真雅僧正に任せ、神護寺を真濟僧正に任せ、自ら堂塔や僧房を造られました。その中でも、高さ

に励まれた方です。前回は、若き日に中国から投じた二鉢杵が、はるばる海を渡つて高野山に留まっていましたところまでを読みました。その後は次ぎに勵職をすべて辞して、弟であるお大師さまは都にお帰りになり、さまざまなお仕事に就きました。お大師さまは都におりました。高野山には、数多くの塔や僧房を造られました。その中でも、高さ



青葉まぶしい季節の高尾山



諸願成就を祈り淨火を素足で踏みしめる、火生三昧「火渡りの儀」



人々の願いを御本尊様へ届けるため撫木を火中に投ずる



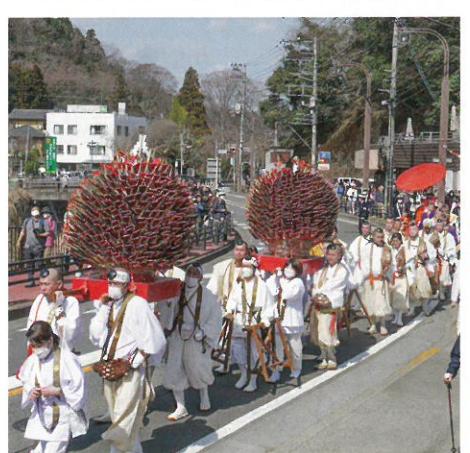
道場内を浄める宝弓の儀



煮えたぎる湯を被る勇壮な湯加持



火を渡り貫首より御加持を授かる



梵天みこしと共に甲州街道を練行する



先頭で火を渡る佐藤貫首



海外からも大勢の方が参加されました



山伏さんと一緒に歩いて安心

国土安穏・疫病終息祈願

高尾山火渡り祭

三月十二日 於・自動車祈祷殿大広場

三月十二日、春を呼ぶ「高尾山火渡り祭」が自動車

祈禱殿広場において、国土安穏・疫病終息を願い佐藤貫首大祇師のもと嚴修されました。

会場内を熱するが如く火焰が立ち上ると、御信徒となり、天へと昇りました。

続く火渡り行の「火生三昧」では、御本尊様の智慧の炎である淨火を素足で踏みしめ、身体健全・安全・災厄消除を念じられ、会場に押し寄せた大勢の方々が山伏に続いて淨火を渡り、諸願成就を祈願されました。

十七世秀興3 麓村々の信仰

明治大学博物館 外山 徹

高尾山年代記

40

歴代山主の事跡をたどる
秀興が大覺寺方廣院を兼帶した前の年、明和四年（一七六七）に田沼意次が將軍側用人となつた元和歌山藩士であつた。意次は吉宗の子家重の小姓として信任を得、大名にまで昇進する

宝暦一〇年（一七六〇）、九代將軍家重が將軍職を退き、一〇代家治が跡を継いだ。秀興が大覺寺方廣院を兼帶した前の年、明和四年（一七六七）に田沼意次が將軍側用人とされた。秀興が大覺寺方廣院を兼帶した前の年、明和四年（一七六七）に田沼意次が將軍側用人となつた元和歌山藩士であつた。意次は吉宗の子家重の小姓として信任を得、大名にまで昇進する



安永年間に建立されたという書院 昭和4年(1929)の大火で焼失

田沼時代

意次の父は徳川吉宗の八代將軍就任に際し幕臣となつた元和歌山藩士であつた。意次は吉宗の子家重の小姓として信任を得、大名にまで昇進する

という、異例の出世をとげた人物である。側用人から老中に昇進して権勢を得、大名にまで昇進する

といふ。田沼時代と呼ばれる。

すでに述べたように商品經濟發展の勢いは止まることなく、この期においても幕府も積極的な介入をせざるを得なくなつた。意次の政策として日本史の教科書でもおなじみの株仲間公認は、有力商人らの閉鎖的な同業組合を認可し、特權を付

主經濟はもはや行き詰まり、この後は特產物生産を保護・奨励し、その収貢米收納に依存する領

反面賄賂の横行を促し、そのことが田沼時代の印象を悪くしたが、政策自体は開明的な重商主義として評価を受ける。年

通を円滑なものとした。

特權の付与や旧慣にとらわれない人材登用は、

も商品流通の利便性を向上させた。中でも、南

嶺二朱銀という金の単位

を付した銀貨は、銀本位の上方と東日本の貨幣流

に登用されている。

与する代わりに市場統制の回路とする日論見であつた。また、貨幣改革も商品流通の利便性を

あつた。以前に開帳や飯糸宮建立に際しての村人ととの交流を記したが、高尾山は彼らにとって信仰の山でもあつた。この時期の日記には関連の記載が管見されるので、その様子を見てゆこう。

鶴田中による雨乞い

翌々明和七年は大旱魃の年であった。照り過ぎ、水無ぎゆえ

鶴田中高尾へ雨乞い、両日ともなり

と記載のある六月九日は、新暦で七月一日にあたる。本来は梅雨の真っ只中でなければいけない。二日には、

雨、さてさて一同喜び申しそうろう

と、ひとまずはご利益のあつた様子だが、その後は再び日照りがつづいた。

この間、上鶴田村原宿組の字である原、原宿、新地、散田の人々は原の熊野社、次いで原宿の山

「高尾山に灌頂人揃えあれ」と地元の人々が集められ、二二日「高尾山灌頂御練りあり」、二二日「同所御練り」と、両日にわたって練行もおこなわれている。一〇月四日「この日より三日高尾山灌頂結縁」と、半月にわたりの大行事であった。

こうした盛んな行事執行により大勢の参詣者を集めた結果、安永年間（一七七二～八二）には後に白雲閣と称される壯麗な書院を中心にして、大寺に坊が整備され、大寺にふさわしい伽藍の構えが整つたが、この時期の寺勢の興隆にはもう一つ背景があつた。

「高尾山に灌頂人揃えあれ」と地元の人々が集められ、二二日「高尾山灌頂御練りあり」、二二日「同所御練り」と、両日にわたって練行もおこなわれている。一〇月四日「この日より三日高尾山灌頂結縁」と、半月にわたりの大行事であった。

こうした盛んな行事執

行により大勢の参詣者を

集めた結果、安永年間（一七七二～八二）には後に

白雲閣と称される壯麗な

書院を中心にして、大寺に

坊が整備され、大寺にふ

さわしい伽藍の構えが

整つたが、この時期の寺

勢の興隆にはもう一つ背

景があつた。

注 下腹部の痛み。差し込みのこと。

『参考文献』 小町和義

「高尾山の建築について」

（多摩文化第二四号武

州高尾山その自然と歴

史）（一九七四）

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜、読みやすく原文に手を加えています。

いけばなの心

(38)

華道教授 佐藤 宗明

今日は長い枝をゆつたりと扱った大きい作品を

紹介します。

長く右になびいている枝は、「連翹」という植物です。連翹は中国原産の植物で江戸時代に日本へ渡ってきたと言われます。公園の植え込みに見かける事もあり、春には黄色く小さい花を咲



花材：都忘れ、連翹、アレカラヤシ

蝶を見かけた

ことがよくあります。蝶を見かけると翅を開いた状態を見てみたいと思うのが常ですが、この蝶は何故か頑なに翅を開かないのです。蝶は翅の中心部、メスは翅全体に金属光沢が強い青灰色を帯び宝石を思わせます。

やや地味な裏面に反し、翅の表を思いのほか綺麗

な蝶が現われる中、シジミチョウの仲間のコツバメ(小燕)もその可憐な姿を見せます。

早い者では三月から活動を始め、気温が上がる日に葉上や地面に止まっていて体を横にして倒れているような姿勢を見せることがよくあります。

蝶を見かけた

蝶を見かけた

蝶を見かけた

蝶を見かけた

蝶を見かけた

蝶を見かけた

蝶を見かけた

蝶を見かけた

蝶を見かけた

東京八王子高尾ライオンズクラブ結成三十年 佐藤貫首記念公演

三月二十五日、京王プラザホテル八王子五階「翔王子の間」に於いて、東京八王子高尾ライオンズクラブの間で、佐藤貫首が「高尾山薬王院貫首修験道を語る」と題して、修験道や自身の修行の経験について、お話しされました。



公益社団法人日本山岳会東京多摩支部主催 「高尾山薬王院貫首修験道を語る」

三月二十五日、国分寺市のcocobunjiプラザ「リオンホール」において、公益社団法人日本山岳会東京多摩支部主催による、春の講演会が行われました。



いろは
天狗の落し文
お疲れさまの
皆の心
和みます

（27）

些細なことでも思いやりを感じさせる言葉にはホツと来るものです。思いやりとは、望む望まないは別として、相手のためを思つて行動することです。ただ「お疲れ様です」と言うだけではなく、夏であれば「暑い中」、冬であれば「寒い中」など言葉をつけるだけでも、言葉に相手を思いやり意味を持たせることができます。

人と会つたら挨拶をする、これは最低限のマナーです。友人知人、仕事関係で付き合いのある人、通りすがりの顔見知り、まつたくの初対面の人……。相手はさまざまですが、朝会えば「あはようございます」、昼間会えば「こんにちは」、初対面なら「初めまして」などなど。人と話すのが苦手という人でも、挨拶することは難しくないでしょう。

觀音菩薩の宗教

64

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪觀音(その2)——正しき月輪觀

前号に引用した『秘藏記』の一節に若干の解説を加えよう。

ここに述べられたのは、真言宗で重視する月輪觀もしくは阿字觀である。ブッダ以来、総じて仏教では心身から邪念や迷いを廃して悟りの境地に至るために坐禅を修する。とはいえて衆生が生きる環境は誘惑や喧騒に満ちており、修行者がそれらを断ちきつて一点に集中するのは困難である。ブッダのごとく、菩提樹の下でひとり悟りを開くことができればそれは理想であるが、凡夫には容易ではない。そこで坐禅のさ

いに前に月の輪の絵や「阿」の字を掲げ、それを注視することにより周りの雑事に惑わされぬよ

観法の「觀」とは元来、見ることであるが、その原語のサンスクリット語は通例ヴィパシュヤナー(vipasyana)に求められる。ヴィパシュヤナーは、通常の「見ること」を意味する「パシユヤナ」に、この場合は強意を加える接頭辞「ヴィ」が付いた語で、明らかに見ることを表す。チベット語では優れた見方を意味する「ラトン(Ithag mthong)」

こうした修道法は臨済・曹洞・黄檗など禅宗における坐禅にも通底するもので、その起源はブッダが悟りを開いた時、菩提樹下で坐していたときの作法に遡ることができる。ここで問題とすべきは、明治以降、欧米のメディテーションの翻訳語として、本来の仏教語にはなかつた瞑想が現れ、坐禅などの仏道修行にも

使われるようになったことである。中村元著『仏教語大辞典』(東京書籍一九七五年)など、代表的な仏教辞典にも「瞑想」は立項されていない。にもかかわらず、現代では僧侶や学者を含む多くの人が、密教の月輪觀や禅宗の坐禅を「瞑想」と同義のように扱っている。これにより、坐禅=禅定=三昧=觀法=瞑想=メディテーションのような誤解や混乱が起きることとなつた。

この問題に関し、仏教学者であり臨済宗の僧侶であつた西義雄が興味深い論文を書いている



半眼で坐禅中のブッダ像。ガンダーラ出土。
2世紀 Royal Scottish Museum蔵
(https://www.pinterest.jp/pin/484137028662807482/)

坐禅中の眼を中心には察してみたい。このことは、月輪觀の「觀」の作法にも結びついていくであろう。

まずはブッダの坐法であるが、古層の經典には、後世の禪宗の作法を記した清規のような詳しい記述は見出し難い。「世尊は菩樹下に於いて結跏趺坐したるまま、七日間解脱の樂を受けて坐せり」(律大品)のように、
「道地經」によると、
「聖行者は結跏趺坐し、(中略) 悟沈睡めんを捨て、此を離れて住し、正念正智ありて悟沈睡眠より心を浄化し」と述べ、坐禅中の居眠りを戒めている。

坐禅の方法が細かく定められたのは、禪經と呼ばれる經典の登場以来である。前掲の西論文は、最初の漢訳者のひとりである安世高が訳出した『道地經』や、それに相当する法護訳の『修行法要』に至るとより明確

かかる眼に関する規定は、天台智顕の『修習止観』に至るまで、かかることを指す」と解釈している。これを仏教語でいえば「半眼」である。薄目」「半開き」である。

ドフルネスなどの「エクササイズ」が日本に齋され、それらの訳語や解釈も注目している。仏教文化圏の多くの尊像を検証すれば例外もあるが、上記の指摘の通り、ガンダーラのブッダ像や、法隆寺の釈迦三尊像の釈迦首菩薩と讃えられた華嚴宗第三祖の法藏による『起信論義記卷下』は、さらに明らかに「閉眼不令全合(眼を閉ざるも、全に「まぶたを」合せしめざるなり」と規定している。これらは文献解釈の後、西は「筆者も机の前に坐し読書又は執筆に向うときは、必ず正身端坐の結跏又は半跏趺坐によることを過去、五十年間の習慣としておるが、長い時間の汽車などでも(中略)その際も、閉眼するときには、何時の間にか居眠りに陥つた、が、長い数次の経験がある」と述べている。以上のごとく、西は経文の解釈と自らの体験を述べた上で、「インド以来の仏や菩薩の坐禅像にも、盲のもの、眼をつぶつて

季節散歩

「牡丹華」
暦の言葉「七十二候」
四月三十日～五月三日頃

「高貴」や「王者の風格」という意味です。

牡丹には「百花の王」という別名もあり、「高貴」や「王者の風格」といった花言葉をもっています。

また、牡丹の花が咲いたら、季節はもうすぐ春から初夏へと移り変わります。

■健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「サルトリイバラ」

八王子市 栄谷怜子 様



一步一歩煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

十五段 人との出会いは人生を豊かにする

これまでいろんな人と出会ってきたことでしょう。他人と関わってきたことで、自身の考え方や行動も変化してきたはずです。そしてこれからも、新たに出会いがあるはずです。人と関わることで人生は実りあるものになることでしょう。

春になり、竹の地下茎から出でてくる芽が筍と呼ばれます。「筍」という字には、十日という意味の「旬」が使われており、食物繊維が含まれており、栄養面にも注目が集まっています。

最近では、春の味覚としてだけではなく、たんぱく質やカリウム、食物繊維が含まれており、栄養面にも注目が集まっています。

今月の風物詩

筍

◎健康登山の皆様へ
高尾山報投稿の御案内

さまでの「健康」に関する思いや思い出・習慣、又は「健康登山」を通じて経験した出来事などの、心温まるお話を聞かせて、頂いています。

そこで、皆様のお話を多くの方々にお届けできますように、御護摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を「高尾山報」に掲載させて頂いております。

その他、おもしろい体験・変わった出来事・ボエム・俳句等どんなお話を結構です。是非お聞きかせください。御協力宜しくお願い致します。

* 投稿頂きました作品は全て掲載できるよう努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございますことなどを御了承下さい。

『高尾山健康登山の証』
のお勧め

年間約二百八十万人の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られています。

成一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられています。

登山者の皆様の励みに、なれば、との思いから平

成十一年から健康登山を始めて、いまでは約五万人の方々が会員となられています。

登山者の皆様の励みに、なれば、との思いから平

りんちゃんのひな祭り
おはなし散歩道
湯沢町 富樫 あい子

りんは、春休みに入る
と越後魚沼の曾祖父の家
に来た。冬休みに一人で
来て自信がついた様だ。
幸助爺は旧暦の四月三
日の雛祭りを守っている。
「寒い! でも気持良い」
幸助爺は伸びをした。雪に埋もれて
いた庭の梅や桜の木の芽
も少し膨らんでき見える。
「チュウ助! おはよう」
朝庭に出て、りんは伸び
を飾る日だ。手伝えよ」
「分かった。ねえ早く!」
クション、クション!
「りんちゃん、風邪か?」
「違う。早くきれいなお
雛様見たいよ」
「そりや、そりやよな」
としんみりしたチュウ助
の声。実は立て続けにり
んの祖父母が亡くなり、
幸助爺はひな祭りをする

藏の番人チュウ助ネズ
ミの寝ている棚を叩いた。
「今日は幸助爺とお雛様
を飾る日だ。手伝えよ」
「分かった。ねえ早く!」
「どうした? 少し熱が
あるなあ。家に帰ろう」
「女雛たちも帰ろう。明日
は四月三日ひな祭りだ」
「私たち、はしゃぎすぎ
たかしら? ?」
「ひな人形たちは、しょ
んぼりして戻った。」
「爺、りんちゃんが:」
幸助爺は床の間の隣に



(挿し絵・小出茂)

りんちゃんのひな祭り
おはなし散歩道
湯沢町 富樫 あい子

三年ぶりに日の目を見たひな人形がはしゃぎ出た。三年も飾っていないのだ。
「おいおい、待てよ!」
お雛様と三人官女の女
雛たちが藏を出て行つた。
お雛様と三人官女の女
の枝を見上げて花摘みを始めた。りんも女雛たちと一緒に花を摘んだ。
「これ何?」りんが聞く
「カタクリの花。それは踊子草。これは草餅に入られるヨモギよ」
女雛はりんに得意そう
に教えた。女雛たちの花
籠は春の花で一杯だ。フ
ムろにひな人形を出した。
アツ、りんが思わず叫んだ。衣装は薄汚れて手
や鼻がはげていて。りん
が想像していたお雛様
じゃない。土雛(つちび)な
んだ。衣装は薄汚れて手
で型を作り素焼きにして
色付けした雛だ。幸助爺
の親の代からのひな人形
で百年以上前の物なのだ。
「チュウ助、りんちゃんと、
お花摘みに行こうよ」

赤い古びた毛氈を敷いていた。爺はよたよたと、
「ここに寝るがいい」
「怖い、誰かいるの?」
「私達も出たい。りんちゃん
と花摘みしたいわ!」
涼やかな声が藏に響く、
「分かった、わかったよ」
チュウ助の慌てた声に、
「怖い、誰かいるの?」
りんは、ちじこまつた。
チュウ助は箱からおもむろにひな人形を出した。
アツ、りんが思わず叫んだ。衣装は薄汚れて手
や鼻がはげていて。りん
が想像していたお雛様
じゃない。土雛(つちび)な
んだ。衣装は薄汚れて手
で型を作り素焼きにして
色付けした雛だ。幸助爺
の親の代からのひな人形
で百年以上前の物なのだ。
「チュウ助、りんちゃんと、
お花摘みに行こうよ」

高尾山報



登山だより

五月行事日程

二十一日

飯縄様御縁日
神徳報謝百味飲食供二十二日
弁天様御縁日
(九時大本堂)

二十三日

琵琶滝不動尊御縁日
奥の院開扉供養二十四日
(十時奥之院)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯縄大権現様の日々の御加護に感謝

し、沢山の御供物を捧げて

御本尊様威光倍増の為、御

供養申し上げる法要です。

皆様の御志納を受け付

けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し

出下さい。

尚、法要終了後に百味の

お札を授与致します。

毎月二十一日午前九時勤修

御志納金 一口三千円以上

毎日の
お護摩奉修時間

(4月15日~10月31日まで)

午前5時30分

〃 9時30分

〃 11時00分

午後0時30分

〃 2時00分

〃 3時30分

ご講中・団体等御相談
下さい。弘法大師御誕生一千二百五十年を記念して
特別お手元を授与致します。弘法大師御誕生一千二百五十年記念
慶賛法要厳修のお知らせ

本年は真言宗を開かれた弘法大師御誕生一千二百五十年に当たり、記念すべき年となります。当山ではこの勝縁にあたり、お大師様をお祀りする大師堂を特別開帳し、その御遺徳を偲び慶賛法要を執り行います。御信徒の皆様方におかれましては、是非ご参列下さいますよう、お勧め申上げます。

時 程 五月二十一日(日・大安)
時 間 九時御縁日御護摩終了後
九時四十五分頃

場 所 大師堂

※法要中は大師堂前にて御参列頂きますが、終了後は十六時まで内陣を御参拝頂けます。

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送っております。
引き続いてご愛読されますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申し上げます。



高尾山薬王院のホームページにアクセスできます
<https://www.takaosan.or.jp>



発行所 東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115㈹
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円

高尾山報助成金
御志納のお願い